

「総合的な学習の時間」実践事例 龍田中学校



本年度、龍田中学校では、龍田中教育目標などに立ち返り、昨年まで行ってきた活動の問題点を見直し、左図のような、総合的な学習の時間」の構想をたてたそうです。「樺タイム」と名づけられたこの時間の学習は、「文化の日」という学習発表の場を得て、生徒たちの血となり肉となつて、各教科等の学習や地域・家庭へと浸透していくものです。

機会を得て、3年「龍田中校区を誇り隊」6コースの一つ「自然探求コース」の学習活動や「文化の日」のステージ発表・展示発表を見せてもらいながら、自分たちの学習を伝えようとする物怖じしない、堂々とした生徒たちの発表は、参観者には大きな「感動」をあたえましたし、生徒の顔にはそれ以上の満ち足りたものを感じさせました。

白川わくわくランド
ニュース

第26号

発行
●白川流域住民交流センター
(白川わくわくランド)
〒860-0854
熊本市東子飼町8-55
TEL・FAX (096) 346-5454
ホームページアドレス
<http://www.wakuwaku-land.com>
メールアドレス
wakuwaku@wakuwaku-land.com

龍田中校区を誇り隊

三年「自然探求コース」の活動報告

白川を学習の場にした「自然探求コース」の学習の流れ

活動1 とらえる

龍田校区のどんな自然を探求しよう。立田山にしようか？農業体験にしようか？校区を流れる白川にしようか？

「白川」に決定！！

活動2 白川について調べる

「白川ってどんな川？」白川わくわくランドで調べよう。水生生物調査で「白川ってきれいだ」とわかったよ。



活動3 白川での体験活動



NPO法人「白川わんぱく探検隊」の指導を受け、川での身の処し方を学んだり、カヌーをしたり。水の流れてたのしい！！でも怖さも勉強！！

活動4 「文化の日」学習発表



今までの取り組みをステージで発表。本物のカヌーやPFD(ライフジャケット)・ウエットスーツを使用してインパクトある劇にしたよ。

水の中で使う「OKサイン」などの紹介も見ている人も一緒にしてくれて有り難う！！

河口から数えて22番目の橋。橋長は72m、橋台9m、高さ17mである。

白川の橋② 白川第二橋梁

豊肥線に架かる鉄橋で、熊本駅から白川第一橋梁を渡っていったん白川の左岸を走ったレールは、龍田駅近くでまた白川を渡り、白川右岸を走り阿蘇方面に続く。

昭和28年のいわゆる6.26白川大水害で鉄橋の半分は流出し、飴状に曲がったレールには流木がひっかかった状態だったが、翌29年にまた開通した。

すぐ上流右岸には、護岸のための昔ながらの蛇籠が残っている。



白川右岸上流から



6.26水害後の橋梁 (熊本県大水害写真集より)

寺子屋 わくわく講座

「川(水)のもつ力と人との関わり」



日時 平成十八年九月十六日(土)
 十九時～二十一時
 講師 九州東海大学工学部
 金子 好雄 助教授
 場所 白川わくわくランド
 参加者 十八名

今年、六月、七月と熊本地方は大雨にみまわれました。白川では大きな災害は起こらなかったものの、もう少し梅雨前線が停滞したら大きな災害にもなりかねなかったということですね。

今回は、「川・水のもつ力と人との関わり」がテーマです。近年、時間一〇〇ミリを超える豪雨の発生頻度が高くなっているということで、まず、七月の白川増水の記録写真が映し出されました。流れ下る水の激しい波と緑地化された河川敷が溢れるほどに水一杯になった様子は異様でした。また、宮崎県の北川を例にあげた「水のもつ力」は、川の流下能力を上げるために河畔林を伐採したところ、流路が変わり破堤したとのことでした。良かれと思ってやった人間の行為に、自然は予想外の力を出し、かえって災害を招くこともあるということですね。

このような例を挙げながら、「自然災害の増加と行政と住民の関係」についての問題提起がありました。予想外の自然災害に対する完璧な防災は困難ではないか。そのために減災のあり方を考える必要があると言ったことでした。その方法としての自助・共助・公助のあり方。

特に「共助」については、「わがまちは、わが手で守る」これを効果的な方法として挙げ、「地域を守ることが自分を守ることになる」ことを力説されました。

講座の日、熊本地方に接近していた台風十三号は、各地に竜巻・土石流などの思いもよらぬ災害をもたらしました。忘れかけている、いや忘れ去られているかたの地域の力をもう一度取り戻したいし、新しい地域力を模索していく必要があると思いました。

「白川体験in本荘校区」で本荘小の子供たちの声・声・声！

日時：平成18年10月7日(土)
 場所：本荘校区河川敷(代継橋下流左岸)
 主催：本荘校区まちづくり委員会
 協力：NPO法人 白川わんぱく探検隊
 後援：本荘小学校PTA、本荘校区社会福祉協議会、本荘校区防犯協会、本荘校区消防団
 参加者：約100名

本荘校区では、かつて、夏場はうちわを片手に三々五々と白川沿いに集まり夕涼みを楽しんだそうです。その後、川から遠ざかった時期がどの流域でもありましたが、また、川を見直そうという取り組みが進んでいます。

その取り組みの一つが、今回の「白川体験in本荘校区」です。住民の方が白川に近づき、身近に感じ、体験が出来る機会が設けられたらとの思いから開催されました。

秋晴れの下、子どもたちはカヌー体験、テナガエビ釣り、水生生物観察などを楽しんでいました。カヌー体験はNPO法人白川わんぱく探検隊の協力で実施され、参加者は、川の流れを感じると共に秋風の心地よさを身体いっぱい感じながら白川での活動を満喫していた様子でした。

参加した子どもたちは、思い出を作品にしました。その一つから

「おもいでぴかぴか」
 一年きはらはな
 わたしは、カヌーにのるのははじめてで
 した。でもカヌーをおしえるかたが、
 「こうすればいいんだよ。」
 と、やさしくいってくれ、やりかたがわ
 かりました。
 こぐいたを、からだのよこでうしろに
 ぐいんとおすんです。ては、こぐいたの
 一ばんうえとまんなかぐらいを、ぎゅっ
 ともつんです。そうやってみると、じょ
 うずにできました。三かいものりまし
 た。一かいも、ひつくりかえりませんで
 した。
 そこでく

ほんとに、るるるんうきうきのカヌー
 のじかんでした。
 つりざおで、てながえびもとりまし
 た。ほそいたけのつりざおです。でも一びき
 もとれませんでした。さんねんです。

さいごまで
 とれずにざんねん
 てながえび

カヌーのしやしんがしんぶんのにのり
 ました。すてきなかわのおもいでがで
 きました。

カヌーをね
 るるるんきぶん
 うきざお

しんぶん
 きりきりうきが
 はずんでる



カヌー！
 つり！
 水生生物調査！

白川わくわくランド 寺子屋

「阿蘇の昔話の地を訪ねる」

阿蘇谷方面



期日 平成一八年十月十四日 土曜日
 八時四十五分～十六時
 講師 熊本地学会員
 村上能治 先生
 参加者 三十一名

秋晴れの天気にも恵まれた十月十四日、阿蘇の昔話の地を訪ねる寺子屋を実施しました。

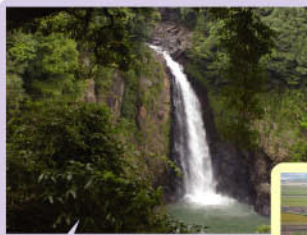
約三十万年前から始まった阿蘇地方の火山活動は、四回大きな噴火を繰り返しながら、およそ九万年前にはカルデラを形成しました。約三万年前には、カルデラ湖の周辺で人間の暮らしの跡が確認されています。

その後、立野火口瀬の出現で、人々はカルデラ内に生活の場を移していき、いわゆる阿蘇地方の文化を育てていきました。特有な自然とその自然にとけ込んだ生活は、神話や昔話を醸し出していったものと思われれます。

今回は、この神話や昔話が生まれた背景を、自然環境と人々の暮らしの関係からひもときその一端に触れてみたいと考えました。

講師の村上先生には、阿蘇の昔話の地を特に地形や地質学的な立場・阿蘇形成の歴史から説明していただきました。お陰で、参加者の皆さんからは感嘆の声しきりでした。

その土地土地に育まれる話は、長い時間を経ながら、その土地の味を出していくものだと思います。



数鹿流ヶ滝。晴れの日が続いたにもかかわらず水量は多い。



小嵐山頂上からの眺め。中通古墳群が見える。



二重の峠から阿蘇谷を見る



霜神社遠景



中腹的の石を観に

私たちが訪れた北外輪山と阿蘇谷一帯

